

平成29年度 「事業報告」

1. 当年度の概要

公立高等学校配置計画案（北海道教育委員会 平成29年6月）によれば、函館市を含む渡島地域の中卒者数は減少の一途を辿り、平成30年から平成36年までにトータル408名の減少が見込まれている。檜山地区においても123名減少する。函館地区の場合、公私協調して7:3の割合で定員の削減を実施しているが、私立高校の経営を圧迫しその存続を揺るがしかねない事態に直面することは明白である。非常事態とも言える状況の中でいかに生き残るかが大命題であり、平成29年度の経営方針『生き残りたければ変われ』を受けて「教師力の向上」を目指し、寄り添う教育に徹したことやオープンスクールや体験入学などの改革を含め、学園あげての取り組みに努めた結果、平成29年度は募集定員170名に対して156名(充足率92%)の入学者があり、一定の成果を上げることができた。

一方、平成29年度卒業生133名の進路状況は、大学・短大・専門学校への進学者は75名(56.4%)、就職者は52名(39.1%)であった。

2. 各科の概要

(1) 家政科

ファッション造形コースは、習得した縫製技術を活かしてシエスタ函館でファッションショーを開催した。また、デザイン画講習やネイル学習を導入して専門性の向上を図っている。子ども文化コースは、3年次の保育技術検定1級4種目合格者が3年連続10名以上で、保育関係への進学者も安定している。

(2) 福祉科

介護福祉士国家試験22名全員合格。6名が看護学校に進学した。

また、3名の教員が認知症サポーター養成講座の講師資格を取得し、本校生徒及び中学校出前授業で開校した。

(3) 食物健康科

本校の他の学科に対してランチを提供する「他科ランチ」を2回提供し、総合調理実習の充実を図った。また、地域を食でつなぐ活動にも積極的に取り組み好評を得ている。特に、「フードフェスタ」と「いさりび鉄道」での販売はマスコミに大きく取り上げられた。

(4) 普通科

総合的な学習の時間に上級学校から講師を招くなど、授業計画に「キャリア教育」を組み込み、グローバルな視野で進路学習に取り組んだ。基礎学力の向上を目指して取り組んできた「大妻ベーシック」も成果を上げてきており、今後は、成績上位者に対する補習授業などが課題としてあげられる。

3. 部活動の状況

平成 29 年度は運動部 6 部すべてが高体連支部大会を勝ち抜き、全道大会出場を果たした。また、支部大会で準優勝と涙をのんだバスケットボール部やソフトテニス部は、秋季大会や国体地区予選で雪辱を果たして優勝し、全道大会に駒を進めている。

文化部では、演劇部が 7 回目の自主公演を成功させ、放送部も、NHK 杯放送コンテスト道南地区大会で「創作ラジオ部門」で優秀賞を獲得して全道大会に出場した。茶道部は福祉施設や養護学校でのお茶会を開催するなど、地域と密着した取り組みが好評を得ている。

4. 教育環境の整備

平成 35 年に創立 100 周年を迎えるにあたって、『記念事業』として人材養成のための「教育環境の充実と整備」に向けた工事を実施し、第一期工事として本校舎が平成 25 年に完成した。引き続き第二期工事が平成 30 年 4 月から本格着工される予定になっている。築 40 年を経過した西側校舎の改修と東側校舎に多目的教室を増築、更に図書室の移転改造などが柱となっている。

施設・設備・備品の老朽化や、時代の変遷に併せて電子黒板やプレゼンテーション用のプロジェクターの設置など、視覚教材や電子機器を活用できる教室の新設と、朝読書の影響や図書係の先生・生徒の活躍で読書に対する気運が高まり、図書室の充実も指摘されていたことから、パソコンを導入して調べ学習や自学習ができる開放感溢れる図書室を作ることにしました。また、蔵書数の増加とデータベース化なども実施します。

完成は平成 30 年 11 月の予定です。

5. 経営力の強化

引き続き中卒者の大幅減少が予測され経営環境が厳しくなる中、経費削減や経営の効率化、教育内容の充実と魅力ある学校づくりに取り組むとともに、定員確保に向けた生徒募集活動により一層注力し、経営力を強化しなければならないと考えている。